

p 33 | 「一問一答」

1. 安中散は、神経性胃炎や胃腸虚弱に用いられる漢方薬である。
2. 甘草湯はカンゾウのみからなる漢方薬で、長期間（1ヶ月位）服用されることが多い。
3. 響声破笛丸や駆風解毒湯はのどの痛みを鎮めるほか、咳や痰に対する効果も標榜している。
4. 小柴胡湯は、体力中等度以上のものの感冒の初期（汗をかいていないもの）、鼻かぜ、鼻炎、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛みに適すとされる。
5. 五積散はダイオウを含む漢方薬で、胃腸炎、腰痛、関節痛、更年期障害等に用いられる。
6. 柴胡桂枝湯は、かぜのひきはじめて、身体のだるさが痛い場合に適すとされる。
7. 麦門冬湯は、体力中等度以下で、痰が切れにくく、ときに強く咳こみ、又は咽頭の乾燥感があるものから咳、気管支炎、気管支喘息、咽頭炎、しわがれ声に適すとされる。
8. 芍薬甘草湯は、症状があるときだけの服用にとどめ、連用は避けることとされている。
9. 当帰芍薬散、呉茱萸湯、半夏厚朴湯はいずれもカンゾウを含まない。
10. 防己黄耆湯はいわゆる水太りの人に、防風通聖散は腹部に皮下脂肪が多い人に適すとされる。
11. 麻黄湯は、体力充実して、かぜのひきはじめて、寒気がして発熱、頭痛があり、咳が出て身体のだるさが強く汗が出ていないものの感冒、鼻かぜ、気管支炎、鼻づまりに適すとされている。
12. 神秘湯は、体力中等度で、咳、喘鳴、息苦しさがあり痰が少ないものの小児喘息、気管支喘息、気管支炎に用いられるが、いずれも胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人等には不向きとされる。
13. 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合は、生後1ヶ月の乳児にも使用することができる。

【解答】

1. ○
2. × 甘草湯は短期間の使用にとどめ、連用しないこととされている。
3. × 響声破笛丸や駆風解毒湯はのどの痛みを鎮めることを目的とし、咳や痰に対する効果は標榜していない。
4. × 小柴胡湯ではなく、葛根湯。「肩こり」がポイント。
5. × 五積散はマオウやカンゾウを含み、ダイオウを含まない漢方薬である。
6. × 柴胡桂枝湯はかぜの中期から後期の症状や、腹痛を伴う胃腸炎等に適すとされる。かぜのひきはじめて、身体のふしぶしが痛い場合には麻黄湯等が用いられる。
7. ○
8. ○
9. ○
10. ○
11. ○
12. ○
13. × 適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこと。